



# 日本語教室活動 のための研修会

第1回

2010年3月7日

NPO法人 中信多文化共生  
ネットワーク 代表理事

佐藤友則

(信州大学国際交流センター  
准教授)

# 目次

- 1-1. 多文化共生： 日本全体
- 1-2. 多文化共生： 中信
- 1-3. 外国由来の人が困っていること -ここまで40分位
- 2-1. 「日本語を教える」ということ
- 2-2. 日本語教室に求められているもの
- 2-3. 日本語教育のシラバス
- 2-4. 初級文法の構造シラバス
- 2-5. 文型と文法
- 2-6. 動詞指導の注意点
- 2-7. 形容詞指導の注意点

# 日本全体の多文化共生 —理念—

— 総務省2006『多文化共生の推進に関する研究会報告書』

- ・ 「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認めあい、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きてゆくこと」

# 日本全体の多文化共生 — 葛藤 —

- ・ 「身障者や老人、子供は仕方ないが、外国人は国に帰ればいいんだ」 発言または意識  
→ 多様性への配慮と対等な意識 ?
- ・ 「日本にいるんだから日本に合わせろ」  
= ~~「同化」~~ ⇒ 多様性を前提にした「統合」へ  
日本への適応を期待、日本も変革が要求される
- ・ グローバル時代  
⇒ 人の移動は止められない
- ・ それなら有効に活用すべき [受入先進国]
  - 米国、英国の経済発展： 移民が支えている
    - ・ 移民比率： 米国12.9%、英国9.7%（日本1.6%）

# 日本全体の多文化共生 —反発—

- ・ 日本の基本姿勢
  - 専門的人材は受入れるが単純労働者は**No**
- ・ 現実
  - 日系人、技能研修生などが日本経済を下支え
  - 日本の若者が働きたがらない**労働現場**を維持
  - 昨今の経済危機で解雇→ 一時的な減少
- ・ 反発
  - 外国人と外国人受入への根強い反発(若年層も)
    - ・ 「日本列島引いては日本国は正しく日本人の物だ。」
- ・ 原因＝ 具体案がなく**想像での議論のみ**  
→**不安と反発を喚起**

# 日本全体の多文化共生 一方針一

- ・ 受入先進国の成功例と失敗例を分析  
→ 日本オリジナルの受入方策を
- ・ 経団連の外国人受入提言<sup>2003年</sup> 基本方針
  - 人口減少の埋合わせではない ⇒ メリットあり
  - 質・量両面で十分コントロールされた受入を
  - 外国人の人権や尊厳を損なわない
- ・ 実は、日本語も日本文化も異種雑多  
⇒ 日本人は異文化受入の許容性 大？
- ・ 受入は当たり前 → どう対応するか？ 1/22春原
- ・ 中信地区は？

# 中信地区の多文化共生：概要

- ・ 外国人人数（2009年5月）
  - 松本市： 4,239人 上田に次ぎNo.2
  - 松本広域： 8,267人 ダントツ県内No.1
- ・ 09年4月から松本市人権男女共生課に担当
- ・ 9月補正予算 外国由来の児童支援策
- ・ 9/16 市会議員の児童支援に関する一般質問  
と伊藤教育長による踏み込んだ答弁

⇒松本市役所に新しい風

# 中信地区の多文化共生： 取組み

1. 公民館を中心とした日本語教室の運営
  - 15年以上続いているところも
2. 多くの支援団体が活動
3. 松本市子ども日本語支援センター設立
  - 2009年12月より
  - コーディネーター1名、日本語支援員6名、バイリンガル支援員3名
  - 市内の小中学校に派遣、18名の児童を指導
4. 交流の取組 = 祭りの企画
  - 6/27中公にて 松本国際ふるさと祭り

# 外国由来の人が困っていること

- ・ 日本語の学習
  - 継続的に質の高い教育を
- ・ 日本人との交流の場
  - 自分達の「ゲッター」がいいとは思っていない
- ・ 人権、人としての尊厳
  - 真面目に働いていたのに最初にクビ？
  - いつまでも「白い目」

→通訳や多言語文書は有用

→それだけじゃダメ。必要不可欠なのは

**日本人の「配慮」「連帯」などの共生意識**

# 日本語を教えるということ1

- ・ 母語話者が母語を外国人に教える  
＝日本人が日本語を外国人に教える

- ・ 簡単か？

回答1: いい教師になる可能性はある

回答2: 優秀な外国語話者の教師に  
負けることもある

- ・ なぜか？

# 日本語を教えるということ2

以下のことができますか？

- ・ 自分の母語の客観視
- ・ 適切な教材知識と、その状況に応じた選択
- ・ 相手がどの位勉強しているかの把握
- ・ 効果的な練習
- ・ 相手がどう分かりにくいかの推察
- ・ 相手が上手になる過程の想像
- ・ 心理マネージメント
- ・ Etc etc etc・・・

# 日本語教室に求められているもの

- ・ 優秀な日本語教師？
- ・ いるにこしたことはない
- ・ ただし日本語学校とは学習者が異なる
  - － 学習動機は必ずしも強くない
  - － 継続の意志も強いとは言えない
  - － 長期間、滞在することが多い
- ・ 求められているのは「心理面も含めて学習者に長く寄り添う会話パートナー」
- ・ 言語指導の基礎は知っていたほうがいい

# 日本語教育のシラバス

シラバス： 教えるべき項目、さらにその配置に関する考え方

- ・ 構造＝文法の積み上げ指導（簡単→難しい）
- ・ 場面＝病院、買い物等の場面で必要なこと
- ・ 機能＝依頼、断り等の言語行動で必要なこと
- ・ 話題＝趣味、旅行等の話題で必要なこと
- ・ 技能＝読む・書く・聞く・話すという4技能毎
- ・ 教材は何らかのシラバスをベースに作成
  - －『みんなの日本語』 構造、『文化初級日本語』  
場面、『はじめよう』 話題

# 構造シラバス： 初級文法(みんな参考)

[N=名詞、V=動詞、A=形容詞]

NはNです → Vの導入 → Aの導入 → 存在V →

序数詞 → Aの過去 → Vのテ形 → Vのナイ形 →

Vの辞書形 → 普通体(基本体) → やりもらい →

たら → Vの可能形 → 自動詞・他動詞 →

Vである・Vしておく → かもしれない → Vの条件形 →

ように → Vの受身形 → 名詞節 → ので →

そうです → ばかり → Vの使役形 → 敬語

◆一度、ひとつおりに教えてみると全体像がつかめる

# 文法と文型

- ・ 文法＝規則そのもの
  - － テ形、ナイ形、可能形、受身形など
  - － すべての文法の正確な定着は困難
- ・ 文型＝文法を組み込んだ文の形式
- ・ 日本語は「**文型**」で意味を伝える言語
  - － Vています、Aくて、～なら～、おVになります等
  - － 意味が伝わるので学習動機アップ
  - － 不正確な文法でも伝わることあり
  - － 「これ 読みます てください」 理解可能

# 動詞指導の注意点1

## 日本語の動詞の3グループ

- ・ グループⅢ： する、来る
- ・ グループⅡ： 食べる、寝る、起きる、着る等  
重要な初級Vは40ほど
- ・ グループⅠ： 一番むずかしい。多くある
- ・ 文法はグループ毎に活用が異なる
- ・ 重要なグループⅡ動詞を覚えておくこと
  - ナイ形を作る時、マス形から変化がないV
  - 食べます → 食べない
  - (グループⅠ) 飲みます → 飲まない

# 動詞指導の注意点2

## テ形①

- ・ 最も難しく、最も文型での応用がきく文法
- ・ この文法とそれを使う文型を習得すれば、ある程度の会話が可能に
- ・ グループ I の動詞 → さらに4グループ
  - 1) マスの前 **い・ち・り** V(買い・持ち・乗)ります → **って**
  - 2) マスの前 **み・び・に** V(読み・遊び・死)みます → **んで**
  - 3) マスの前 **き・ぎ** V(書き・急)ぎます → **いて・いで**
  - 4) マスの前 **し** V(話)します → **して**
- ・ グループ II & III の動詞: 「ます」をとって「て」
  - **開けます → 開けて、 来ます → 来て**

# 動詞指導の注意点3

## テ形②

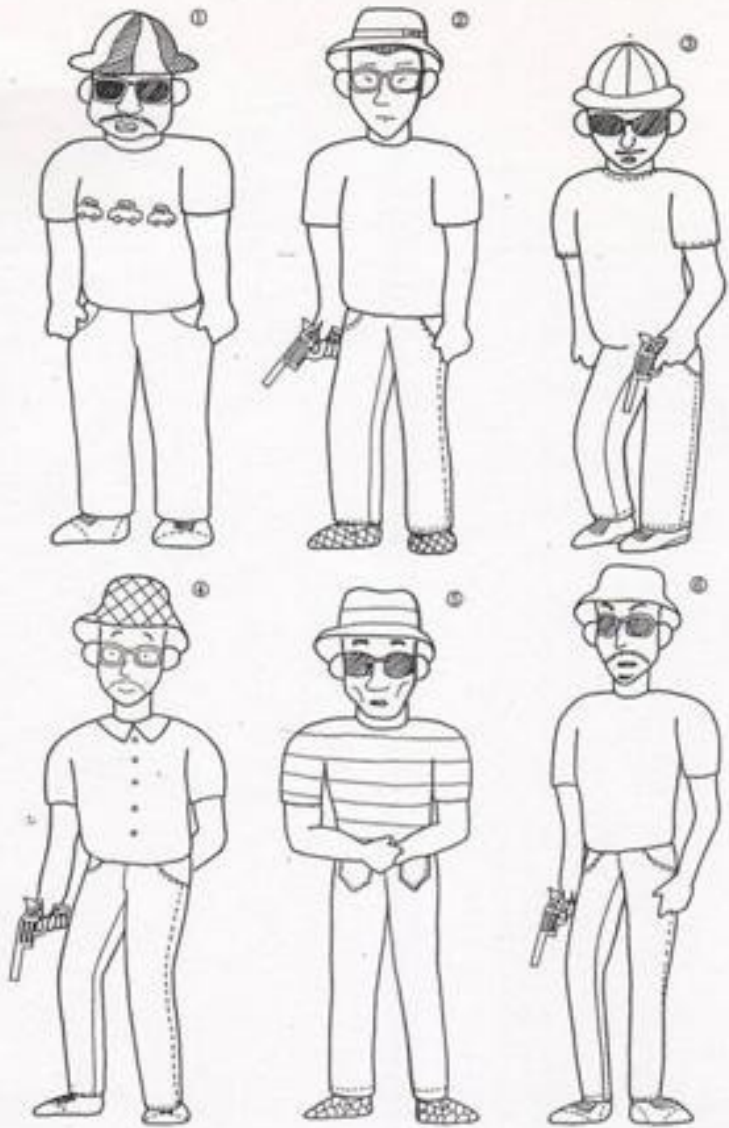
- ・ 使われる文型

- ています、てください、てもいいです、てはいけません、てあげます、ても、てしまいました、てあります、ておきます、てみます、てきます、ていただけませんか、ているところです

- ・ 早めに**文型の意味を教えて**テ形の練習

- 即戦力になる
- つまらないパターン練習のみ→ やる気喪失
- ゲームなどを活用

# 動詞指導の注意点4 -テ形のゲーム例



1. 「コンビニに泥棒が来ました。皆さんは見ました」
2. 「警官に伝えてください。どんな人でしたか」
3. 学習者に1人選ばせる
4. 選んだ犯人をテ形を使って説明させる。それを聞いて、他の学習者に当てさせる

# 形容詞指導の注意点1

- ・ 動詞同様、知らないと会話にならない品詞
- ・ 動詞より量が少なく、活用も簡単
- どんどん教えるべし！ 動詞指導にエネルギーをかけすぎの傾向
- ・ イ形容詞（イA）とナ形容詞（ナA）
  - － イA: 寒い、まずい、つまらない、重苦しい
  - － ナA: きれいな、派手な、セクシーな
  - － 「きれい」「有名」をイAと混同する人多し
  - － 外来語はナAになることが多い 「ダイナミックな」

# 形容詞指導の注意点2

- ・ 形容詞の活用
  - 否定形(高くない)、過去形(高かった)、過去否定形(高くなかった)、名詞接続(高い車)、連用接続(高くて)
- ・ 正確な定着は実は困難
- ・ 間違えてもいいから話させ、使わせる
- ・ パターン練習とゲーム→ 会話練習

# まとめ

## 多文化共生

- ・ 外国由来の人の大量受入はもはや当たり前
- ・ どうやって受け入れる枠組を作っていくか

## 日本語教育

- ・ 日本語教室が「一流の日本語学校」を目指す必要はない
- ・ ただし、最低限の知識がないと教える側も学習者もフラストレーション

前向きに取り組んでいきましょう